

(別紙)市町村の課題概要

1. 人材不足 19団体

「ひとり情シス」・「ゼロ情シス」状態：担当者が1名しかいない、あるいは他業務(防災、選挙、教育など)と兼務しておりDX推進まで手が回らない状態。

専門人材・スキルの不足：担当者はいるものの、ITやDXに関する専門的な知見やスキルを持った人材が不足している。

採用・育成の困難：専門人材の雇用や育成に課題を感じている。

2. 戦略の不明確さ 7団体

計画の未策定：体系的なDX推進計画が存在せず、何から手を付けてよいか分からない。

全庁的な目標の欠如：全庁的な目標が設定されておらず、対応が個別最適にとどまっている。

ビジョンの不在：人手不足や必要性の認識不足により、DXをどう進めるかのビジョンが見えていない。

3. 予算不足 18団体

内部DXへの投資抑制：住民サービス(窓口DX)には予算がつくが、内部管理事務などのDXは予算や補助金がないため進みにくい。

費用対効果の壁：人口規模が小さいためデジタル化の費用対効果が悪いと認識され、予算がつかない。

財源確保：システム導入に高額な費用がかかるため、補助金頼みにならざるを得ない。

4. 既存システムの対応 7団体

標準化・共通化への対応負荷：標準化対応により担当者が多忙を極め、他のDX推進に手が回らない。

OSサポート切れ対応：Windows10のサポート終了に伴う端末リプレイスなどの保守業務に追われている。

見積もりの妥当性評価：標準化・共通化に伴う費用見積もりの妥当性の判断に苦慮している。

5. 組織文化 8団体

現状維持志向・抵抗感：慣例を変えることへの抵抗が強く、新しいプロセスの導入に消極的。

「負担増」への拒否：DX推進を提案しても「実働はそちら(推進担当)でやってくれ(負担を増やすな)」と原課にあしらわれる。

主体性の欠如：やらない理由を探しているような消極的な姿勢や、意見が出づらい雰囲気がある。

6. 部門間連携 11団体

連携の不十分さ：全庁的な推進体制はあるものの、個別の部門間調整やデジタル協同については十分ではない。

パワーバランス：庁内のパワーバランスにより、過去の業務量調査結果などをうまく活用できていない。

7. ITシステムの導入・運用 7団体

定着と展開：Udemyなどのツールを導入したが、全庁への展開や定着度合いの計測に課題がある。

具体的活用法：キントーンなどのツール活用方法や、「書かない窓口」導入に向けた具体的な進め方の支援を求めている。

8. 経営層の理解 3団体

首長の消極的姿勢：首長が内部DXに否定的であったり、トップダウンでの推進姿勢が見られない。

幹部の当事者意識不足：「自分に迷惑がかからなければいい」というスタンスやCIO補佐官からのストップにより取り組みが進まない。

9. その他 2団体

庁舎建て替え・移転：新庁舎への建て替えやネットワーク移行が控えており、今のタイミングで支援を受ける余裕がない。

議会対応：議会との調整に苦労している。

他業務の切迫：国勢調査や選挙業務などが重なり、物理的に時間が取れない。